



すずかけ



令和7年9月1日

第6号

校長 鎌田 史顯

長い夏休みが終わり、2学期スタート！

8月28日（木）、長かった夏休みが終わり、2学期が始まりました。久しぶりの登校ですので、宿題やズックなどのたくさんの荷物があって重そうでしたが、みんなニコニコ、「元気なあいさつの声」が学校に戻ってきました。

体育館の全面的な改修工事が始まっていますので、始業式はオンラインで行いました。先生方用のタブレットを電子黒板につなぎ、校長室からの配信を観る形式です。

校長の式辞では、まず「全国的に問題となっている動物による被害」の話をしました。1学期終業式前後には学区内でもクマが発見されました。市職員や警察の方々がたくさん動員され、ヘリコプターが上空から監視する中、クマは駆除されました。もし、登下校中に遭遇したらどうなっていたのでしょうか。集団で登下校していても、先生と一緒にいたとしても、大きな被害は避けられなかったかもしれません。人的被害をなくすためには、捕獲や駆除は必要なことだと思います。一方で、人里に出るようになったのは、「気候変動」「木の実などの食べ物不足」「生活範囲の縮小」が主な原因ではないかと言われています。もし、その原因を人間がつくったのだとすれば、「クマなどの動物たちも被害を受けている」のであり、私達にはもっとできることがあるのではないかと、SDGsの一覧表を紹介しながら考えてもらいました。



工事のはじまった体育館

2点目は「2学期のがんばること」です。特に強調したキーワードは、「すすんで」「やりきる」「良い言葉」の3つです。「すすんで」は1学期のスタートから取り組んできた「自分から」「必要感を見つけて」「主体的に」取り組むための合言葉です。そして、2学期は「自分の納得できるまで」「粘り強く」「途中でイヤにならずに、ゴールまで」の姿に期待して「やりきる」を加えました。また、学校はパブリックスペースであり、仲間と一緒に生活する場所ですから、マナーがありルールも大切です。親しい中であっても、授業中には発表に適する言葉があり、先生や大人の方とお話する時の敬語もしっかり使える人になって欲しいと思います。1学期、ある児童から「暑いから早く昇降口開けて！」「何で早く開けてくれないの？ケチ！」と言われました。悪気はなく、自然に口から出た「タメグチ」であり、これまで学ぶ機会がなかったことが原因です。学校では、子供一人一人を「〇〇さん」「〇〇くん」と名前を呼びます。あいさつを丁寧に行い、「はい」と返事をしたり、係活動での呼びかけや発表に適した言葉遣いを繰り返し練習したりしていきます。ぜひ、プライベートスペースではありますが、ご家庭でも「おはようございます」「いただきます」「ごちそうさま」「行きます」「ただいま」「ありがとう」などのあいさつの励行を心がけていただくことや、より良い言語環境づくりにもご協力いただければ幸いです。

2学期「いのちを輝かせた姿」

- ① すすんで、やりきるまで 取り組む！
- ② 良い言葉 でコミュニケーションし、
仲間といっしょに笑顔で活動する！
- ③ できた・わかった・もっとしたいの
意欲いっぱいで！
- ④ 努力が成果につながり、自分の成長を
実感する！

2F・3F 廊下がきれいになりました！

本校の校舎は、築53年目を迎えており、市内の学校で古い校舎トップ3に入るそうです。現在のところ、改築や移転の計画は全くないそうです。既に耐震工事は完了しておりますし、今年度は築42年目の体育館の全面改修工事を実施していますので、修繕や補修しながら大切に使い続ける見込みです。

昨年4月に着任した当時、床タイルの継ぎ接ぎや割れ、欠けがとても気になりました。割れているものや欠けているものだけでなく、床自体のヒビによって割れているものもあり、その総数は400枚を超えていました。長年補修を繰り返している中で「同じタイルが欠品」となり、4～5種類の色の異なるタイルが、廊下も階段も貼られるチグハグ状況となっていました。色の異なるタイルで模様をつくったり、欠けているところだけを切り取って貼ったりする、技能技師さんのご苦労が伺える状況でした。これまでの勤務校では床タイル1枚割れると大事件でした。「床のタイルが1枚割れてしまい、子供たちがケガをする危険性があるので、廊下にイスとコーンを置き、注意喚起しています！」「今日中に修繕して欲しいと市教委に連絡しました」という対応が当たり前でした。同じ山形市民として「学ぶ環境に大きな格差があるのではないかと、市教委のヒヤリングや学校運営協議会で話題にし、学校施設の維持管理を担当する課長さんにも直接現状を強く訴えてきました。「古い学校だから壊れているのはしょうがない」「古い学校だから、壊れていてもそのまま使ってもらおう」ようなことはあってはならないことです。「これまで大事に使ってきたのだから、壊れたり古くなったりしたものはしっかりと修繕・交換し、子供たちが愛着を持って使い続ける施設にする」ことが必要なのです。



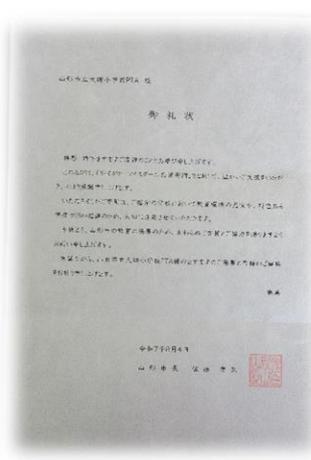
継ぎ接ぎタイルの階段

昨年5月に体育館天井の吹付材が落下した際、「天井にある水銀灯は20灯中12灯が点灯しないので、8灯で使っている危険な状況」「ステージの蛍光灯は12本中6本しか点灯しないので常に暗い」「壁面の板は、大きな割れや穴が多数あっても長年にわたって放置」の現状を訴え、天井の吹付材だけでなく、この8月からの全面改修工事が実現できました。

しかし、校舎内外には廊下や床、壁面や水屋など、修繕したいところはまだまだあります。トイレの水の流れの悪いところもありますし、校長室の水道はコップに黒いサビがゴロゴロ入ります。水屋は小さいタイルを貼ってつくられていますので汚れが溜まっています。校長室は床と壁の間からゲジゲジやハサミ虫がよく出てきます。

そんな中、PTAのみなさまから、「コロナ禍で活動が制限され、繰り越しが増えている分を子供たちのために使ってはどうか」との本真にありがたいお言葉をいただき、子供たちが一日に何度も通る「2Fと3Fの廊下のタイルの張替え」が実現しました。PTAは「保護者と教員で組織する任意団体」ですので、学校施設の修理や補修工事をすることはできません。本来は設置者である市がすべきことです。そこで、山形市の「やまがた・マイスクール応援寄附」として、「その学校のために使っていただくことを目的として、山形市に寄附する」という形で実現しました。

きれいで、明るい廊下になりました。大切に使いしていきます。



市長からの御礼状



きれいに張り替えられ、明るくなった廊下